

# EA760A-14(コンビファインダー)取扱説明書

Ver.1.0

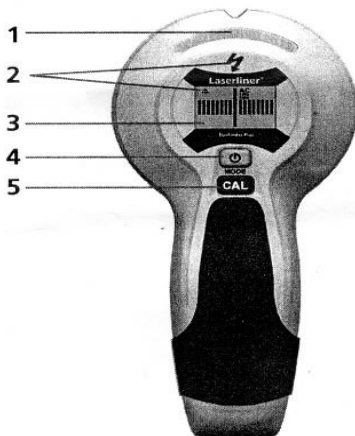
このたびは当商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ご使用に際しましては取扱説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

金属および活線のための電子検出器です。本検出器には、ユーザーガイド付きのVTNディスプレイが  
装備されているため、簡単で信頼性の高い操作が保証されています。  
音と光で物体の位置を特定し、高レベルの機能的信頼性を保証します。

## テクニカルデータ

AC検知範囲	110-230V、50/60Hz
使用温度範囲	0°C~40°C
保管温度	-20°C~70°C
電源	006P型 9V電池1個(テスト電池付属)
サイズ	85×180×38mm
重量(電池を含む)	180g
測定深さ	
検出金属の位置 金属/非金属	7.5cm以下/5cm以下(深さ)
活線の位置(AC-SCAN)	4cm以下
電線(死線)の位置(AC-SCAN)	4cm以下

## 各部名称



- 1、最大値表示
- 2、活線警報
- 3、LC表示
- 4、ON/OFF  
モードの切り替え(MODE)
- 5、手動校正(CAL)

電気の流れている付近で、メタルスキャンモードで  
行なう際は電源を切って下さい。

- ・本装置は、その意図された目的および仕様の範囲内でのみ使用して下さい。
- ・装置の改造をしないで下さい。

### 1 電池の入れ方

本体の後ろにある電池ボックスのカバーを開き、  
9V電池極を間違わないように入れて下さい。



### 2 操作

ON : 短くON/OFFボタン(4)を押すと電源が入ります。

OFF : 2秒間ON/OFFボタン(4)を押すと電源が切れます。

オートオフ : 最後の計測が終了して30秒後に自動的に電源が切れます。

### 3 シンボルマーク



赤=活線警報

メタルスキャンおよびACスキャンモード  
緑=金属または活線は近辺です  
赤=金属または活線は直下です



検知物は近辺です



検知物は直下です

## 4 校正



### 自動校正

スイッチを入れ測定モードになった時メタルスキャンおよびACスキャンモードは自動校正します。



### 自動校正+

検知物が見つかった時、テスターはメタルスキャン測定で他の自動校正を実行します。これにより、検知対象物の検知を簡素化し、異なる表面でも検知できます。

### 手動校正

手動校正ボタン(5)を押す。

これにより、測定を再検知し、検知物をより正確に判別することができます。  
最大感度は、校正中にテスターを大気中に保持している時に達成します。



テスターと壁面は、校正中(空気中での校正を除く)と測定中は接触し続ける必要があります。  
手でテスター保持して下さい。

## 5 測定モードの選択

短く測定モードの切り替えボタン(4)を押す

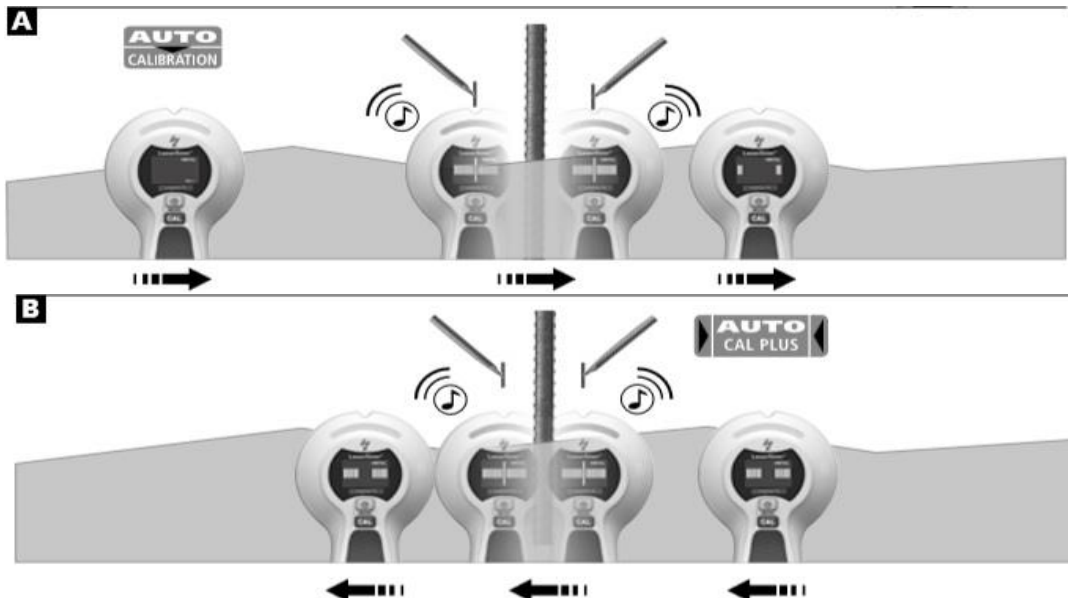
**METAL-SCAN** : 金属のない壁の中の木の梁、栈木や金属の検知  
**AC-SCAN** : 非金属の下の活線の位置検知

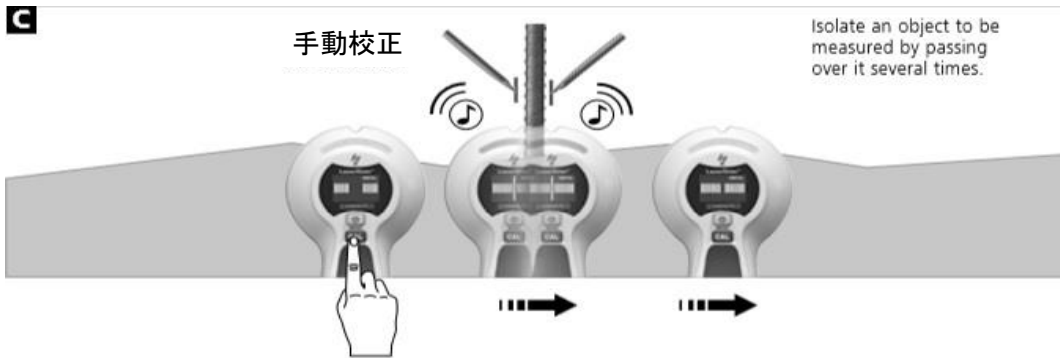


## 6 METAL-SCANモードの測定

金属のない壁裏の木の梁、栈木や金属の検知、例えば石膏ボード、ベニヤ板その他の覆い材など。

- ① METAL-SCAN(4)を選ぶ。
- ② ディスプレイがCALからCAL OKに切り替わるとすぐに、テスターを使用する事ができます。
- ③ 移動 : 検知器をゆっくりと表面全体に移動させます。  
CAL OKが表示されます。
- ④ 検知器を壁の表面に沿ってゆっくりとスライドさせます。





ヒント1: 2つのマーキングの間の位置は、検知対象物です。(図A)高感度測定により、厚みのある対象物は現実のものよりも幅広く見えます。よって新しく検出された対象物の上にテスター(図B)の様に移動させます。テスターはこの移動中に自動的に校正されます。

手動校正は、この(図C)のように最後に検出された場所の近くで実行する必要があります。必要に応じてこの手順を繰り返します。

ヒント2: 最初に置く位置は重要です。まず、金属がないと思われる位置にテスターを置きます。そうではない場合、ディスプレイに「ERROR(エラー)」というメッセージが表示されます。

**\* 対処方法:** 数センチ離れた別の位置にテスターを移動し、再度測定を開始して下さい。

ヒント3: 複雑な状況の場合、表面を水平方向および垂直方向に走査します。

ヒント4: 金属箔を含んだ柔軟な床と壁のヒーティングパイプも表面近く的位置に検出されることがあります。予めこのようなパイプの位置を知っている場所でこの機能をテストして下さい。

ヒント5: スキャン中の干渉を避けるために、使用していない手やその他の物を15cm以上離して下さい。

ヒント6: ドア、窓、コーナーの壁に設置された金属構造の外端のみを検出します。

その後、金属構造の他の端を検索します。テスターを壁にそって横にスライドさせます。最大表示が現れると、金属構造の端に達しています。

ヒント7: 金属物を実際に検出したことを確認して下さい。そうするには、一般的に30、40、60 cmの等距離で他の金属が存在するかどうかを両側でチェックします。また、最初の検索の位置のすぐ上と下のいくつかの場所でスキャンして、それが金属オブジェクトであることを確認します。

ヒント8: 天井は厚紙で覆われているかもしれません。この場合、感度を最大にして検出を行なって下さい。(その際は空中でテスターを校正して下さい。)

## 7 AC-SCANモードの測定

石膏ボードや木製パネル、他の金属の含まない乾燥した装材の下にある活線の検知が出来ます。乾燥した装材の下に金属製のスタッド(棧、梁等)があれば活線検知できません。

- ① AC-SCANを選ぶ(4)。
- ② ディスプレー表示がCALからCAL OK になると、検知が出来ます。
- ③ 壁の表面に沿ってスライドして下さい。
- ④ 活線を感知すると、表示画面が下記のように表示、色点灯します。
- ⑤ 赤い線の下に検知物があります。



検知物は近辺です

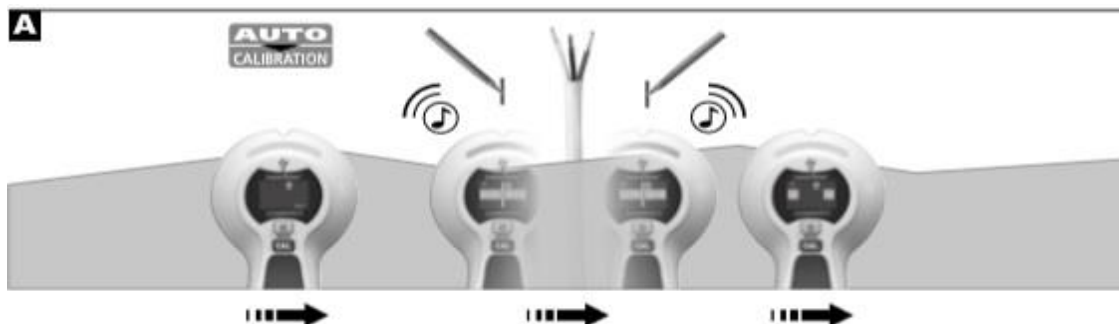


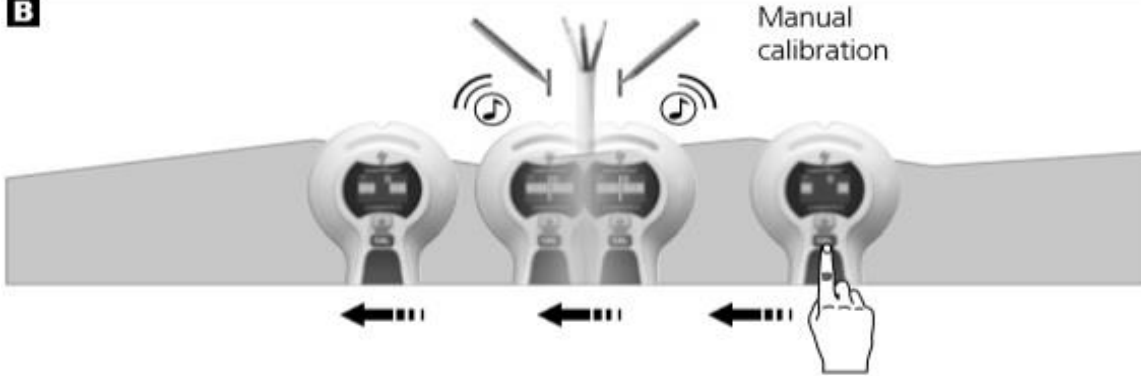
検知物は直下です

AC-SCANモード

緑: 活線は近辺です

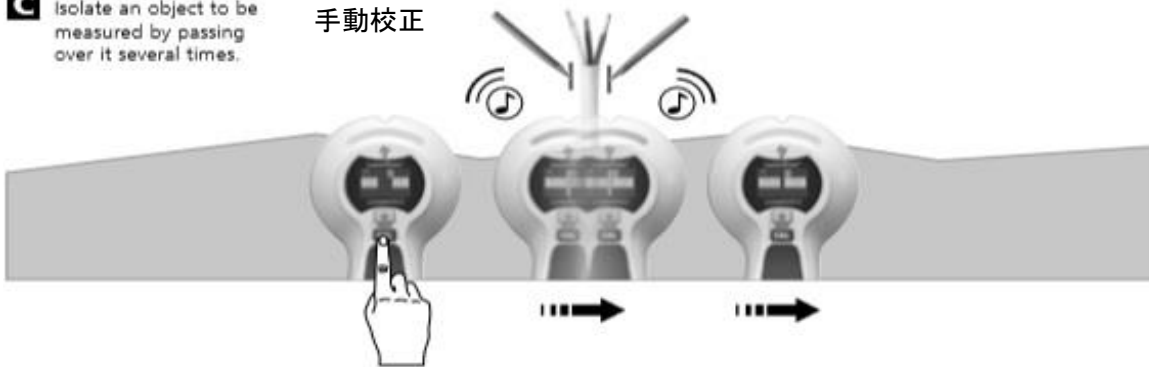
赤: 活線は直下です



**B****C**

Isolate an object to be measured by passing over it several times.

手動校正



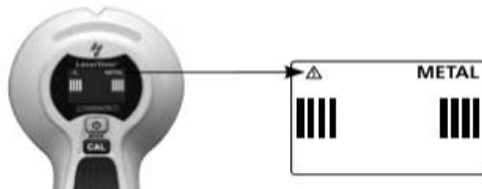
- ヒント1 : 上記イラストB、Cに示すように、手動校正は最後に見つかった場所の近くで行って下さい。  
必要であれば作業を繰り返して下さい。より正確な活線場所が感知できます。
- ヒント2 : 静電気の変化によって、電線の実際の位置の横に電界が検出されることがあります。  
これらの変化を無くすために手を壁に当てて下さい。
- ヒント3 : 摩擦は静電気の変化干渉が発生するので検知器をゆっくり動かして下さい。
- ヒント4 : 電線があると思われるのに見つかる事が出来ない時は、電線管で隠れているかもしれません。  
その時はMETAL-SCANモードを使用して下さい。
- ヒント5 : 壁の中の金属(例: 金属の梁)は電界を送るので干渉の元になります。  
その時はMETAL-SCANモードを使用して下さい。
- ヒント6 : 検知開始の位置が重要です、高感度を得る為に活線が無いと思われる位置に検知器を置いて測定を始めて下さい。



活線は深さ40mm以上検知出来ません。

## 8 METAL-SCAN: 電流の監視

電界が検知されると非シールド線においての連続電流監視が出来ます。



電線の近辺で作業をするときは電源を切して下さい。

## 9 バックライト

テスターはバックライト機能付きです。



・活線の検知範囲はAC110~230Vです。

改造はしないで下さい。

- ・本機の寿命を著しく損ねる場合があります。
- ・ご使用者が怪我をする場合があります。
- ・作業工程に支障を来たす場合があります。

株式会社 エスコ

本社 / 〒550-0012 大阪市西区立売堀3-8-14

TEL (06)6532-6226 FAX (06)6541-0929

18.Dec